



## 浦田 優美 (うらた ゆみ)

活断層・火山研究部門 地震テクトニクス研究グループ

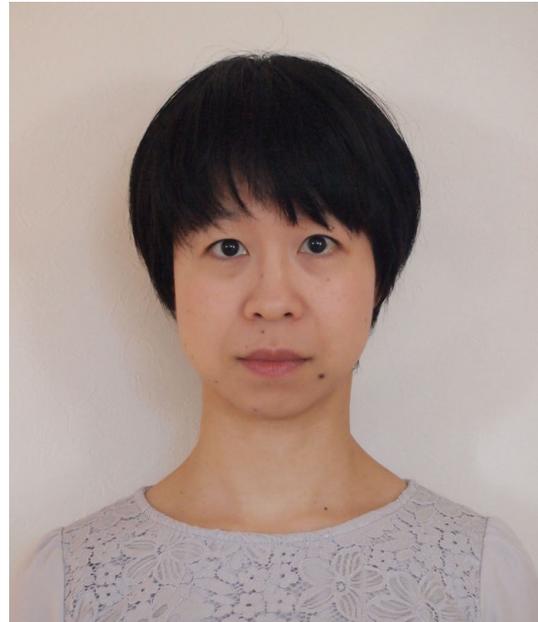
2021年4月より活断層・火山研究部門地震テクトニクス研究グループに配属されました浦田優美です。京都大学大学院理学研究科で学位を取得した後、昨年度まで国立研究開発法人防災科学技術研究所でポスドクをしていました。

私は、なぜ大地震が起こるのを知りたいです。特に地震時の断層の動きに関する理論・数値モデル研究によって、大地震現象の理解・発生メカニズムの解明に向けた研究を行ってきました。

大学院時代には、水と摩擦発熱の相互作用による断層摩擦の低下が大地震を引き起こすことを、数値シミュレーションによって明らかにしました。ポスドク時代には、大学院時代に行った理想的な場での基礎的な理論研究を、より現実的な場へと発展させたいと考えました。岩石摩擦実験や自然地震のデータを基にしたモデリング研究を行い、大地震が発生する力学条件などを示しました。

今後は、過去の地震の再現シミュレーションによって大地震の発生条件に関する知見を深めるとともに、将来

どのような地震が起こり得るかを想定するための研究に取り組みたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



## 青木 伸輔 (あおき しんすけ)

地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ

今年度より産総研特別研究員として地圏資源環境研究部門燃料資源地質研究グループに所属となりました。青木伸輔と申します。2019年に明治大学で博士号を取得し、明治大学ガスハイドレート研究所、イスラエルのVolcani Centerのポスドクを経て、現職に至ります。

専門は比誘電率測定に用いられるTDR法や熱的性質測定法の1つであるHP法を用いた土壌物理学です。これらの手法を不飽和土壌中の油汚染物質質量の推定や、圃場における土壌中の物質移動のモニタリングなどに適用した研究に大学では取り組んでいました。Volcani CenterではArduinoを用いた安価なHP法の測定システムの評価、HP法による土壌中の水分フラックス測定をテーマに研究していました。

学部生の頃にメタンハイドレートの調査航海に参加する機会を得てからは、表層型メタンハイドレートが生成する環境で起きる現象が環境にどのような影響を与えるか、ということに興味を持ちました。この観点から、海底から噴出するメタンの気泡が大気濃度に与える影響、

堆積物中の流体の移動が堆積物強度に与える影響について研究してきました。

燃料資源地質研究グループでは表層型メタンハイドレート賦存域における堆積物の地盤強度調査に取り組みます。農学部では吸収できなかった知識と技術を、産総研で自分の力にしながらプロジェクトのお役に立てるように尽力いたします。どうかよろしくご指導をくださいますようお願いいたします。

